

〈セミナーのご案内〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 353 (通算 684 回)

2017 年 9 月 13 日 (水)

“審査システム 2018” への対応――

科研費改革の進展と申請・獲得方策

～新審査の要点と留意点／新研究計画調書のチェック／支援の実際～

- ※ 50 年ぶりの大改革／新たな研究種目体系・審査区分・審査システム／管理・執行の適正化
- ※ [理工・生命分野] 今次の改革をどう考えるか／新計画調書をどう書くか／URA の支援は
- ※ [人文・社会分野] 全学での体制と研究文化の育成／新システム対応方針／「科研塾」の実際

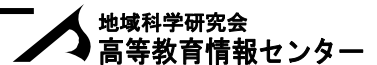
● 講師陣 ●

長澤 公洋 氏 / (独)日本学術振興会 研究事業部長 兼 人材育成事業部長

岡野 恵子 氏 / (公)横浜市立大学 URA推進室特任講師(URA)

大澤 清二 氏 / 大妻女子大学 副学長 人間生活文化研究所長

2017 年 9 月 13 日 (水) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)



日時: 2017 年 9 月 13 日 (水) 10:00~16:50

会場: 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)
千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL 03-3230-2833

アクセス: 東京メトロ半蔵門線・都営新宿線
「神保町駅」 A1 出口より徒歩 3 分

<http://www.jec.or.jp/koutuu/>

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

- 参加費: A. ご一名(資料代込) 41,000 円(税込)
B. メディア参加(資料・音声 CD 送付) 42,000 円(送料、税込)
C. 高等教育同人(☆) 21,000 円(税込)

- ※メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声 CD を送付します。
※なお、当日参加とともに、音声 CD をご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。
※参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。
☆高等教育計画経営研究所同人は KKJ の HP でご確認願います。

☆ご案内をパンフからメールにシフトしております。ご登録くださいませ。

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

申込方法: 参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法: 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。
みずほ銀行麹町支店 普通 1159880
三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767
三井住友銀行麹町支店 普通 7411658
郵便振替 00110-8-81660
口座名 <(株)地域科学研究会>

※ ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申込先: 地域科学研究会・高等教育情報センター
東京都千代田区一番町 6-4ライオンズ第 2-106
Tel:03(3234)1231 Fax:03(3234)4993 〒102-0082
E-mail : kkj@chiikikagaku-k.co.jp
HP : <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 353

年 月 日

科研費改革の進展と申請・獲得方策

(□に✓印を) □当日参加 □メディア参加
支払方法 □郵便振替 □当日払い □銀行振込
必要書類 □請求書 □見積書 □領収書

勤務先 _____

所在地 〒 _____

(書類宛名 _____)

連絡部課・担当者名 _____

TEL _____ FAX _____

メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目 (改訂があり次第HPに公開)
10:00 } 12:00	<p>□ 科研費の最近の動向</p> <p style="text-align: right;">日本学術振興会 長澤 公洋</p> <p>1. 科研費制度の概要</p> <p>(1) 科研費の仕組み (2) 予算・申請・配分等の状況</p> <p>(3) 審査・評価システムの概要</p> <p>2. 科研費改革の動向</p> <p>(1) 科研費改革の概要 (2) 審査区分の見直し</p> <p>(3) 審査システムの見直し (4) 研究種目の見直し</p> <p>3. 科研費の管理と適正な執行</p> <p>(1) 科研費の使用ルール (2) 不正使用・不正行為への対応</p> <p>(3) 研究成果の公開、普及・啓発</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
13:00 } 14:50	<p>□ [理工・生命分野] 新研究計画調書作成のチェックポイントと進化策 ～ 学長のリーダーシップ/URA としての矜持 ～</p> <p style="text-align: right;">横浜市立大学 岡野 恵子</p> <p>1. 今次の科研費改革をどう読むか</p> <p>(1) イノベーションの基盤力としての若手研究支援の強化</p> <p>(2) 新たな研究種目体系への対応</p> <p>(3) 新たな審査区分・審査方式への対応 (4) 新たな研究計画調書への対応</p> <p>2. 新研究計画調書をどう書くか</p> <p>(1) 研究のテーマ・目的・方法を考える前に</p> <p>(2) アウトラインとポイントを決めてから書く (3) 審査員の観点からの点検と改善</p> <p>3. URAは何をどう支援できるか</p> <p>(1) 調書のチェックポイント・問題点は</p> <p>(2) 支援できること、できないこと</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> <p style="text-align: center;">※仮案であり、7月中旬にKKJ HPに改訂をアップ</p>
15:00 } 16:50	<p>□ [人文・社会分野] 科研費獲得に向けた環境醸成と支援体制づくり ～ 「科研塾」の実際/DoとDon't～</p> <p style="text-align: right;">大妻女子大学 大澤 清二</p> <p>1. 全学をあげた科研費獲得の体制づくりと研究文化の育成</p> <p>(1) 学内における競争的研究費の必要性</p> <p>(2) 教員の個人研究費と競争的研究費</p> <p>(3) 大学院生からの競争的研究費獲得</p> <p>(4) 共同研究体制づくり ～ 成果の報告・出版・広報活動</p> <p>2. 新審査システムへの対応の基本方針 ～ 人文・社会分野でのシナリオ～</p> <p>(1) 新たな研究種目体系と若手支援対応 (2) 新たな審査区分・審査方式への対応</p> <p>(3) 新たな研究計画調査書への対応の要点</p> <p>3. 科研塾の実際</p> <p>(1) スタート支援から始まる科研塾</p> <p>(2) 具体的な申請書作成のポイント DoとDon't ～ 申請書の構造、研究課題、研究目的、研究計画、研究体制、研究経費などの書き方～</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>